

事前の予約で、チャイルドシートの用意も

お母さんの「困った！」に応える

“子育てタクシー”[®]

「夜、子どもが急に発熱……」「夫がないときに、陣痛が起きたら……」

そんな時、安心して使えるタクシーがあつたら――。

子育て中の母親の声から生まれた
“子育てタクシー”が、いま各地に広がっています。

「こんにちは。今日もよろしくお願いします」との利用者の声に、「お姉ちゃん、大きくなりましたね」と子どもに手を貸す運転手さん。タクシーのドアには、“子育てタクシー”的大きなステッカーが。町を走る、こんなタクシーを見かけたことはありませんか？

“子育てタクシー”は、一般社団法人・全国子育てタクシー協会に加盟し、研修を受けたドライバーが、子育てのニーズに合わせて運行するサービス。現在は全国約130社が加盟、1600人の認定ドライバーがいる。

安心して使えたら

この取り組みを始めたのは、香川県で子育て支援を行なう

シリーズ
いま女性たちは
⑨

新しいしくみを自分たちの手で



四国発の“子育てタクシー”、多世代をゆるやかにつなぐ“コレクティブハウス”――家族や地域のつながりが薄れてきた中でも、安心して暮らすために、女性の視点から生まれた新しいしくみを紹介します。

イラスト／松村達男

NPO法人“わははネット”だ。きっかけは、NPOの子育てひろばにきていた母親が、「出産の前に家で破水してしまい、病院に行くのにやつとの思いいでタクシーを呼んだら、シートが汚れると冷たい対応をされ悲しかった……」と話したことだった。

タクシーは、緊急時や子育て中には強い味方では?「子育てひろばにやつてくるママたちに、タクシーについてアンケートをとると、子連れだと嫌な顔をされる、車内がタバコくさいのが気になるなど、ネガティブなイメージとともに、安心して利用したいという声が多かつたんです」と“わははネット”理事長の中橋恵美子さん(47)は言う。

どんなサービスや、乗務員の知識、気づかいを望んでいるのか、アンケートの意見とNPOが持つ経験を生かして、事業化の企画書を作成、県内のタクシー会社を回った。一社だけ、子育て中の女性社長が「うちでやつてみましょう」とのりだしてくれた。

その会社とサービス内容や研修カリキュラム(子育て家庭のニーズ、保育の知識やチャイルドシートの使い方など)を詰め、2004年に県内で試験的運行を実施すると、利用した母親たちの口コミもあり、リピーターが増加。利用者登録も増えた。次第に評判が広がり、うちでもいう会社が全国に増えていった。

勝手に「子育てタクシー」を名乗る会社も現れたため、研修とシステムを制度化して、協会の設立に至ったという。

現在、協会事務局は神奈川県横浜市にある。事務局長の波木井美由紀さん(49)は、地元の子育て支援NPO法人“まんま”的スタッフである。「協会に加盟の申し込みがあつた会社には、その地域の子育て支援団体を紹介します。認定研修には保育実習も含まれるので、子育てひろばなど、なるべく親子が集まる場所を持つ団体に研修を担つてもらい、広報なども協力をお願いしています」。

支援団体は緩衝材のような役割、と波木井さん。「“まんま”も、地域のタクシー会社と連携し、お母さんたちがタクシー会社に直接言いにくいことなどは、研修を通して運転手

神奈川県在住の利用者、針生朋子さん(33)、実咲さん(6)、寛大くん(4)。



協会の認定を得た証の専用ステッカー。

「寛大を妊娠中、雨の中、実咲をつれて健診に行くのに三ツ境交通(横浜市)の子育てタクシーを利用したのが最初です。とても親切に対応してくださって。うちは夫婦とも両親の住まいが離れていて手伝いは頼めず、自分で運転できないので……。3人目がお腹にいるので、これからもお願いしたいと思っています」。

三ツ境交通では、7割の乗務員が子育てタクシードライバーの認定を受けている。

子育てタクシーの利用料は、基本的に通常のタクシー料金体系(メータ)と同じ。玄関や病院の受付まで荷物を運んだり、子どもが家に入れるまで見届けたりなどへの加算はない。その料金のしくみが会社の参入が伸び悩む原因の一つとなっている。



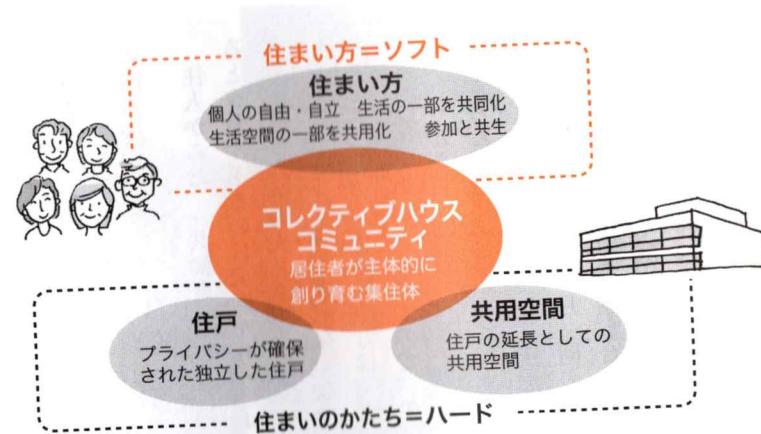
NPO「わははネット」理事長
中橋恵美子さん

地元の母親たちと連携しながら

さんと顔見知りになつている私たちが聞いて伝えています。もちろん感謝の言葉も。また、行政が子育てタクシーを支援する際の仲介役もしています」と話す。

とはいって、今後のさらなる広がりのためには、両者の取り組むべき課題や改善点は、まだあるという。また、「子育てタクシーがあることをもつと知らせたいけれど、利用したいという声に対してもタクシーの数が足りないのも現状。問い合わせがきても、地域によっては、まだ運行するタクシー会社がないことも多いのです」。

子育てタクシーの利用料は、基本的に通常のタクシー料金体系(メータ)と同じ。玄関や病院の受付まで荷物を運んだり、子どもが家に入るまで見届けたりなどへの加算はない。その料金のしくみが会社の参入が伸び悩む原因の一つとなつている。



暮らしの一部を「共有」することによって、多世代をゆるやかにつなぐ「コレクティブハウス」。少人数や一人世帯が増えていく、これからの時代の住まいとして、大きな可能性をもつています。

ひとりの大きな特徴は「コモンミール」。週1～3回の夕食づくりの共同化です。全員が交代で当番になりますが、食べる食べないは自由。食事の後片づけや掃除、庭や菜園の水やり、戸締りなども当番制で、協力して自主管理します。

地域とつながる共同体であることも大切にして、コモンミールには知り合いの方が見えたり、コモンスペースを活かしてイベントを開くこともあります。

住み手がつくりだす住まい

コレクティブハウス（C-H）とは、各世帯が独立した住居と、キッチンや洗濯室、リビングなど共有の場所「コモンスペース」をもち、共同で運営する賃貸型の集合住宅です。現在、東京都内に4カ所あり、血縁によらず多世代がゆるやかにつながり、共に生きる暮らしつくりだし

自分の手で暮らしをつくる コレクティブハウス という住まい方

宮前眞理子
(NPO共同代表/一級建築士)

さらに、利用者にもサービス券や割引券など行政からの優遇があると、よりサービスを活用していくけるのでは、と波木井さん。「行政もようやくニーズに気づいて、支援へと動き出しています」。

「こににもほしい」が原動力に
始まつて10年。「ここまで拡大していくとは思っていませんでした。困っている親子は、全国にいるんだ

と感じています。まだ行き届かない地域にこそ、需要があると思うのです」と、「わははネット」の中橋さんは話す。

神奈川県の三ツ境交通で、サービス開始当時から子育てタクシーの運転手を務める男性は、「始めたころは、どんなものかと冷ややかな意見も多かった。それでも一人、二人と利用するお母さんたちが増え、感謝される中で、乗務員の気持ちも変

わっています。まだ行き届かない地域にこそ、需要があると思うのです」と感じています。まだ行き届かない地域にこそ、需要があると思うのです」と、「わははネット」の中橋さんは話す。

神奈川県の三ツ境交通で、サービス開始当時から子育てタクシーの運転手を務める男性は、「始めたころは、どんなものかと冷ややかな意見も多かった。それでも一人、二人と利用するお母さんたちが増え、感謝される中で、乗務員の気持ちも変

わっています。まだ行き届かない地域にこそ、需要があると思うのです」と、「わははネット」の中橋さんは話す。

神奈川県の三ツ境交通で、サービス開始当時から子育てタクシーの運転手を務める男性は、「始めたころは、どんなものかと冷ややかな意見も多かった。それでも一人、二人と利用するお母さんたちが増え、感謝される中で、乗務員の気持ちも変

子育てタクシーのサービス



利用するには……

加盟しているタクシー会社に問い合わせ、会員登録を（地域の運行情報などは協会のホームページを参照）。

「かんがるーコース」

通院や健診、買い物など、荷物の多い子連れの外出などに。玄関先まで荷物も運んでくれる。

「ふくろうコース」

急なトラブルや夜間の発熱などにも対応。突然の事態の子どもだけの送迎も可能。

「こうのとりコース」

事前に出産予定日、産院、緊急連絡先などを登録。陣痛が来たらかかりつけの産院へ。※一部の会社では利用できない。

「ひよこコース」

事前に保護者が予約し、子どもの一人での移動を手伝う。送迎後は連絡もくれる。

(社) 全国子育てタクシー
協会事務局
TEL : 045-489-3676
(平日 9:00-16:00)
FAX : 045-442-3666
HP : <http://@kosodate-taxi.com/>